

平成 29 年度 第 2 回錦江町食育・地産地消推進会議 会議録

平成 30 年 3 月 8 日（木）15 時 00 分

錦江町役場 2 階会議室

担当	<p>お疲れ様でございます。それでは定刻となりましたので、平成 29 年度第 2 回食育・地産地消推進会議を開会させていただきます。産業振興課長がご挨拶申し上げます。</p>
事務局	<p>皆さん、お疲れ様です。本日はお忙しいなか、また足元の悪いなかご出席くださいまして誠にありがとうございます。</p> <p>計画の中では、年 3 回会議を開催するとして計画をしておりましたが、都合によりまして今回を含め 2 回の会議と、本日が最終の会議とさせていただくことを、まずもってお詫び申し上げます。</p> <p>本日は会議の中で、後もって担当からアンケート結果、それから食育・地産地消推進計画案等について説明をさせていただきますので、どうぞよろしくをお願いします。</p> <p>それではただいまより、第 2 回錦江町食育・地産地消推進会議を開催したいと思えます。まず始めに、変更になった委員の紹介を、担当から説明させます。</p>
担当	<p>第 1 回目にご出席いただいた委員の方から、異動等の都合がございまして、変更になっております。</p> <p>教育課課長が、今回の会から委員として参加するということでございます。よろしく願いいたします。</p>
事務局	<p>それでは、会議に入らせていただきます。本会議は、副町長が議長となって会議を進めることになっていたのですが、都合によりまして今、副町長が不在ですのでご了承いただきたいと思えます。進行を産業建設課長にお願いします。</p>
事務局	<p>皆さん、こんにちは。協議がスムーズに進みますように、ご協力をよろしくお願いします。</p> <p>それでは協議事項（1）アンケート結果について、事務局から説明をお願いします。</p>
担当	<p>それでは協議事項の 1 番目、アンケート結果について、でございます。事前に、資料の 1-1、1-2、1-3 ということで、結果を送付させていただいておりました。しかし、訂正をすべき箇所がございまして、本日、差し替えの資料をお配りさせていただきました。</p> <p>訂正の場所、内容ですけれども、結果の順序ですとかそういったものには</p>

	<p>変更はないのですが、パーセントの表示の仕方、こういったところでご指摘いただいた場所がありまして。複数個回答を選ぶようなところですよ。3つ選んで丸をつけてくださいというような、複数回答を選ぶものですが、こちらにつきましては、当初、すべての回答の数を分母にして、回答数の割合を出していたんですけども、それでは結果的にパーセント、率が低く出てしまって、深刻さが伝わらないといいますか、そういったところがございまして、あくまで回答をされた方の人数、これを分母にして、Aという回答を選んだ人が何人いて、結果、何%の人がAという回答を選んでいるんですよという形に改めさせていただきました。</p> <p>その見分け方としましても、参考までに資料1-1の間3なんですけれども。これは回答数です。これは一人ひとつ回答を選ぶ形になっています。こういったものについては、回答数という表示にさせてもらっています。間4になりますと、今度は回答者数という表示になっているかと思います。これにつきましては、回答をされた方が130人いましたと。そして40の方が1番に丸をつけて、お酒っていうのを選んだ人は30%でしたよと。こういった表示の仕方に改めさせていただきました。</p> <p>回答数の順位的には、以前お配りしておいたものから変わりございませんので、この訂正は計画に影響はないところでございますが、改めてさせていただきましたので、アンケートの集計の見方というところについて、説明させていただきました。</p> <p>設問数が多いですので、今ここで具体的に一つ一つを報告するというのは、ちょっと割愛させていただきまして、またその代表的な質問ですね、計画に関与してくるものについては、次の議題で説明させていただきたいと思えます。よろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>関連がございますので、協議事項の2、錦江町食育・地産地消推進計画の案について説明をお願いいたします。</p>
担当	<p>それではですね、事前に送付しておりました資料2、計画案ですが、お持ちでない方はお配りしますが、よろしかったでしょうか。こちらと同じ本日お配りさせていただきました、資料2差し替えと書かれたもの、これらを使ってご説明をさせていただきたいと思えます。座らせていただきます。</p> <p>それでは事前配布の資料2ですね、こちらを基本として説明をさせていただきます。細かな修正をしないといけない場所もございまして。例えば、目次の第2章のところですけども、2番から始まっていると思えます。これを1、2、3という順に訂正をお願いしたいと思います。</p> <p>それから第3章の所の2番ですね、基本目標・推進体制とありますけれども、推進体制のところを消していただきたいと思えます。推進体制について</p>

は、次の章で述べるという形にしたいと思います。

それから参考資料、別冊ということですが、まずアンケートの内容、結果については、先ほどの資料1から3までのものになります。それから食生活指針につきましては、本日は参考資料として一枚紙でお配りさせていただきました。後もってまたご覧いただければと思います。

それから鹿児島版食事バランスガイドはですね、第1回の会議の際にお配りをさせて頂いたものになります。

それでは次のページ、第1章の計画策定にあたって、でございますけれども、計画策定の背景・趣旨、こういったところを述べる必要があります。それで前段の部分ですけれども、これは前回の会議の際に述べさせていただきました、国・県が計画で課題として挙げていること、こちらをまとめ書いている形になります。それから中段ですね、次の段落で、本町ではということですが、ここでは国県の計画と連動した計画ですよということが書いてあります。後段につきましては、基本的な考え方は第1次計画を主としつつと書いてありますけれども、後ほどまた述べますけれども、ここにつきましては本計画の基本理念を書いているところでございます。二行目後半あたりからの、町民が食育と地産地消を理解して実践し、未来ある子供たちの健康で健やかな成長を支えること、それから二段ほど下にいきまして、自然の恵みに感謝し大切にする日本古来の食文化を子供たちに継承すること、こういった子供たちを中心に考えた計画を作りましたということで、そういうことを目的にしていますよということを述べております。

ページをめくっていただきまして、4ページ目になりますけれども、本計画の位置づけということでして、これは、法律に基づいて作った市町村の食育推進計画であります。併せて市町村の農林水産物の利用促進計画、いわゆる地産地消計画ですね、この二つを兼ねた計画ですよということを書いております。また併せて、真ん中あたりの表に書いてあるとおり、町の各計画とも連携を取っていきますということを書いております。

3番ですけれども、計画の期間は30年度から34年度までの5か年の計画になります、ということを書いております。

5ページに移りまして、第2章ということで、本町の食の現状と課題ということになりますけれども、まずはですね、第1次、平成24年に策定した食育推進計画、錦江町食交流推進計画ですけれども、こちらに掲げていた6つの目標、これが結果どうだったのかということをご自分で検証をしております。

6つ項目がございまして、H24というところが平成24年度にとったアンケートの結果です。その次の目標値というのが、その第1次の計画で掲げた目標の数値で、現場地というのが今回のアンケート結果でございます。その

次の進捗率とありますけれども、進捗ですね、率は消していただきたいと思
いますけれども、結果としましては、全ての項目において目標を達成できて
いませんでした。ただしですね、その進捗の所で三角がついていないもの
については、進展があったということでございます。ですので三角がついた項
目については、食育への関心それから食事バランスガイドを参考にした食生
活、それから農林水産業の体験ですね、これらについては推進の方法もまた
改めながらの重点課題ということで、位置づけをさせていただいていると
ころです。

ページをめくっていただきまして6ページです。アンケート調査の概要と
いうことで、どういった方々を調査の対象にしたとか、調査の期間とか、回
収率等を書かせていただいております。一般、それから児童・生徒、それか
ら保育園・幼稚園という三つの区分でアンケートを取らせていただきました。

一般につきましては、ご覧のとおりの方々が対象で、町内保育園・幼稚園
それから小学校中学校につきましては、生徒さんを通じて保護者の方に回答
をお願いしたところとです。調査期間につきましては、11月1日から11月17
日までと。調査方法・回収状況ですけれども、一般の町民の方につきましては、
郵送でアンケートをお送りさせていただきまして、回答いただいたのが
96人と。回収率が60%ということございました。それから一般の保護者の方
につきましては、学校さん経由でお願いをいたしましてご協力いただきまし
て、回収率が74.5%ございました。児童生徒につきましても学校さん経由
でお願いしまして、回収率が77.3。保育園・幼稚園につきましても、園の方
にご協力いただきまして、回収率75.8%という結果でございました。

それから次のページに移らせていただきまして、ここからがアンケートの
具体的な結果というところになってきます。計画に大きく関わってくるアン
ケートですね、それを抽出させていただいて掲載をしております。

まず食育についてということで、ここは食に関する正しい知識の習得、こ
う言ったところが今、国・県が考える課題の一つですけれども、そこに絡め
ての質問と結果でございます。食育についての認知度ですけれども、こちら
につきましては、言葉も意味も知っているという方、こちら59.2%ござい
まして、前回の調査時よりは減少しているところでございます。それを年代
別にみえますと、児童・生徒ですね、ここですね、言葉は知ってるけれど
も意味がわからないというところですね、ここがちょっと割合が大きかった
ということで、こちらについては若年層に対する食育理解のための推進です
とか、情報提供が必要だろうということで書かせていただいております。

ページをめくっていただきまして、食育への関心についてですけれども、
こちらにつきましてもですね、関心がある、どちらかといえば関心があるを

選んだ方というのは、第1次の計画策定時よりも減少をしているという状況でございます。

それから下の問 45 につきましては、実はここに上げてある項目はどれも食育においてはすべて大切な項目であるわけですがけれども、特にこの0%であった3項目、農林水産業体験、それから食品ロス、食品の無駄ですね、これの削減、優れた食文化の継承、こういったところが関心度が低いというところで、ここらに対しての、特に理解と関心を高める取り組みが必要だろうというふうに考えております。

次の食事バランスガイドの認知度につきましては、こちらにつきましてもですね、知っているという方が減少しておりますので、ここも取り組みとしては周知の徹底といったところが必要かと考えられます。

次の9ページに移りますけれども、今度は食生活についてと言うことで、これはですね、課題としては、今、国・県が考えてるのが、ライフスタイルの多様化ですとか、そういったところで、朝食の欠食などの食習慣の乱れが顕著になっていると、そういうところが課題となっているところです。

それで、朝食を欠食することがある町民の割合ということで、毎日食べるという方の割合は前回よりも増えております。ただしですね、これを年代別にみていくと、30代から50代、ここについては数値が低いという結果が出ております。

これを、30代から50代が低いというのを頭にいったん置いていただきまして、ページをめくっていただきまして、誰と朝食を食べますかというところで、目を引いたのが、真ん中の児童・生徒というところですね、ここで一人で食べる事が多いという人が11%ほどはいるというところがちょっと目を引いたところでございます。こちらに書いておられますとおり、国の第三次食育基本計画というものです、こちらには、誰かと一緒に食事を取る頻度が高い子供というのは、その頻度が低い子供よりも健康状態ですとか、食物・栄養素の摂取状況等が良いという結果が出ているということで、子供の食事や健康については、家庭での食に対する意識が日々の食行動・食習慣にも影響を与える可能性があるというふうにされているところです。そういったところを考えますと、下の段、下から2行目ですけれども、子育て世代、働き盛りの30代から50代の朝食の欠食率の高さ、というところが深刻であるというふうに位置付けまして、これにつきましては改善に向けて取り組まなければならないというふうに書かせていただいております。

次の11ページに移ります。これはですね、関連して、夕食は誰と食べていますかというところなんですけれども、夕食になるとですね、まあ家族揃って食べるという割合が増えるわけですがけれども、やはりまだですね、一人で

食べるとか、子供だけで食べるというところにも数パーセント数字が見られるところ。家族が食卓を囲んで、食事をとりながらコミュニケーションを図るということは子供への食育を推進する大切な時間であるということ。そして、夕食についても共食を進めていく必要がありますと書かせていただいたところ。

次の4、食への感謝についてという項目ですけれども、これは国・県は、食品ロスですね、食べ物の無駄。こういったところを課題としておりますので、それに関連した質問を抽出したところがございます。まず食事の時の挨拶ですね。必ずしているという割合、これが減少したところがございます。

ページをめくっていただきまして、問42、食べ残し・廃棄をもったいないと感じるかというところで、いつも感じているという答えを選んだ人の割合が、やはり減少したところ。その次の問43、食べ残しを減らす努力につきましても、必ずしている・だいたいしているという項目を選んだ人の割合、これも同じく減少したところ。問53、農林水産業体験したことがあるかという質問ですけれども、あると答えた方が前回よりも減少しているところがございます。

食生活指針ですね、参考資料としてお付けしましたけれども、そちらにもですね、食料資源を大切に、無駄や廃棄の少ない食生活を送りましょうということ載せておりますので、そういったところを考えましても、まずは農林水産業体験をとおして農林水産業への理解を深めてですね、そこへの感謝の念を育て、食品ロス削減につなげるための取り組みが必要というふうに書かせていただいております。

次のページですね、13ページなんですけれども。ここはですね、差し控えさせていただきますと思います。右肩に、資料2差し替えと書いた、本日配布の資料、こちらに掲載させて頂いておりますが、こちらをご覧頂きたいと思っております。どこを変更したかと言いますと、アンダーラインが引いてあるところですね。元の資料では、自分の健康への不満、それから普段ストレスを感じている人はそれぞれ6割程度、というふうに書いておりましたが、グラフをご覧いただければ分かる通り、まず自分の健康への不満を感じてる人というのは4割程度で、普段ストレスを感じている人という名6割程度というふうになっておりますので、このとおり訂正をさせていただきますと思います。それから、歯ですね、歯や口のことでの困りごとについては、困っていることはないとした人は、3割程度にとどまっていたという結果でした。

めくっていただきまして14ページになりますけれども、メタボリックシンドロームについてということ。言葉の認知度というのは非常に高いというところなんですけれども、問7の、1日30分以上の運動を行っているかと

という質問に対しては、ほとんどしないという方が5割を超える結果と。それから問29の、塩分摂取を控えるよう心がけているかという問に対しては、特にしていないという答えを選んだ方が、やはり5割近くにのぼったというところで、こういったところを改めていく必要があるというふうな書き方をさせて頂いております。

それから次に15ページなんですけれども、こちらすみません、差し替えが多くて申し訳ないんですけれども、資料2差し替えの、裏面の2枚目、こちらを使って説明させていただきたいと思います。アンケートの結果から先に申し上げますけれども、不安を感じていると。日頃の食生活についてですね、そういう人は5割近くを占めたというところで、その悩みとはなんですかという問につきましては、健康面はもちろん出てくるだろうと予想がされたんですけれども、次に高かったのが食品の安全性についてというところでした。では食の安全性について不安を感じるころはなんですかというところにつきましては、1番多かったのは輸入食品ですね、こちらが一番高かったということで、これについてもちょっと頭に置いていただきたいと思います。それからまた修正をした点ですけれども、アンダーラインを引いた場所になりますけれども、元々お配りしていた資料では、この部分に食べ残しや食品廃棄など環境への影響については第1計画策定時から何パーセント減少しておりと。食品ロスに関する話がここで出てきてしまっていました。食品ロスに関する話は前段でしておりまして、ここでは食の安心安全について語るべきところですので、アンダーラインのところにありますように、その不安の解消につなげるため、正しく食品・食材を選別することができるように、町民が食に関する知識を深めることができるような情報ですね、こういったものを適時・適切に提供するというふうに変更させていただいております。

それからページをまためくっていただきまして、その情報の提供の仕方ですね、これをどういった手段を取っていかうかとした時に、食品の安全性に関する情報源は何ですかという質問をさせていただいたんですけれども、これにつきましては、1番はテレビラジオ、次に新聞・雑誌、インターネットの順でした。ただしこれは年代別にみていくとですね、年代が下がるにつれてインターネットの割合が増えてきます。30代においてはもう、新聞・雑誌を逆転してもう60%近くに達していた、という状況でございます。ですので、情報発信による周知・推進を図る上では、内容によっては、伝えるべき年齢層に適した情報発信媒体の選択というのが必要になってくるだろうということで、こういう書き方をさせていただいております。具体的にはですね、SNSですね。Facebookとか、こういったものをもっと活用していくべきではない

かというふうに考えております。

次のページからはですね、地産地消についてということです。まずは地産地消の認知度と感心度ということで、ご覧のとおりアンケート取ったわけですが、地産地消という言葉を知ってる人、関心のある人というのは8割を超えているという状況なんですけれども、これが実践してる人の割合となると、3割を切る状況だということで、地産地消の意味を正しく理解した上で、関心を高めた上で、実践につなげるということが必要になるだろうというふうに書かせていただいております。

ページをめくっていただきまして、農林水産物の購入場所につきましては、順位ですとか割合については大きな変化はなくて、1位が食品中心のスーパーマーケット、それから2位が大型スーパーマーケット、それから直売所というような順位でございました。ただですね、問64で、購入する農林水産物を選ぶ際の基準というところのアンケートにつきましては、国内産のものというのがですね、前回5位でしたけれども3位まで順位が上がってきました。これは前段の方で述べましたが、輸入食品に対して不安を感じる人の割合が多い中で、国内産のものへの安心感・信頼度が高まっているのではないかと考えたところなんです。地元産物についてもですね、正しい食品表示ですとかトレーサビリティ、こちらの推進等によりまして、消費者に対して安心・安全をアピールすると。そういった取組みを行えば、また地産地消にも繋がってくるのではないかとというふうに考えたところなんです。

次のページに行きます。19ページはですね、子供たちの状況と書いておりますけれども、子供達の状況について、というふうにさせていただきたいと思っております。食事を楽しいと思うとき、つまらないと思うときということで、これは児童・生徒へのアンケート調査だったわけですが、これは当然だろうなというものは、好きなものを食べる時、それから問18に行けば、嫌いなものが出た時、これは当然かなというところなんですけれども。外食するときとかいうのもそうですけれども。家族揃って食べると良いというのが3番目に高かった数字でございます。それから問18にあっては、つまらないと感じるのは、一人で食べるときと。これが第3位に上がっているということで、子供達が充実した食生活を送るには、やはり共食ですとか逆に孤食、こういったのが深く影響してくるのではないかとというふうに位置づけたところなんです。

ページをめくっていただきまして、学校給食についてでございます。学校給食が大好き、好きと答えた子供は7割を超えているという状況でございます。その内訳を見ていくと、おいしい給食が食べられるから、これがもう何7割近くと。その次に高かったのが、みんな一緒に食べられるからと。これ

も7割近くあるところですが。先ほど申し上げましたけれども、やはり子供たちが充実した食生活を送るというところでは、共食ですね、これが深く影響を与えているというふうに考えたところです。それからその下は、保護者が考える学校給食というところですが、学校給食に対しましては、保護者の皆さんは、栄養への配慮というところを高く評価しているという結果が出ております。それから学校給食に望むこととしましては、食品の安全性というところが最も高く、次に高かったのが郷土食とか行事食の取り入れ、こういったのを望んでいるという結果でございました。もう今すでに取り組んでいただいておりますけれども、地元産の食材利用ですとか、こういったところが、また保護者の皆さんの評価にも繋がってきているし、今後も繋がるんじゃないかというふうに考えたところです。それから4の親が考える子どもへの食育というところで、子供への食育とはというところで、こちらですね、すいません、先ほどの割合の話でして、また差し替え資料の方ですね、21ページの下の方なんですけど、先ほどちょっと説明させていただきましたとおり、グラフの形は変わらないんですけども、回答の数を分母にしてしまうと、最初配った資料にあるとおり、パーセンテージがかなり低い表現されてしまう。修正資料の方ですけども、これは回答した人の数、これを分母で考えるとこのような割合で表示されてくるというところで、差し替え資料のような表現の仕方を取らせていただいたところです。親はですね、1日3食規則正しく食べる、それから食べ物を無駄にしない、そして食事の前後にいただきますなどの感謝を表すこと、これら3つが特に高かったというところです。

元資料に戻っていただきますけれども、ページをめくっていただきまして、今度は子供が考える食育ですね。こちらについては、規則正しい食事というところが1番高かったと。それから、よく噛んで食べる、それから食事の前後にいただきます等の感謝を表すこと。これら3つが特に高かったところでして、親と子供の考える食育の、トップ3を合わせたのが次の4点。食べ物を無駄にしない、食品ロスの削減ですね、それから規則正しい食生活、次が食事の際の挨拶、よく噛んで食べると。こういったところが子供・親というところで、食育を実践する時に、とっかかりやすい部分になってくるのかなというふうに考えているところでして、こういった所へは、情報提供ですとか指導、そういうのをサポートしていく必要があるというふうに考えたところです。

23ページ次のページですけども、まとめる部分になります。計画の基本的な考え方についてというところで、基本理念としましては、最初申し上げましたとおり、子供達をあくまで中心に考えていこうと。未来ある子供た

ちの健康で健やかな成長のために、食育・地産地消を理解し、豊かな自然環境と食への感謝の気持ちを育む、ということで、子供たちを中心に考えることで、そのためにまず大人たちが食育・地産地消を理解して実践していこうというような考え方でございます。

基本理念を実現するための基本目標ですね、これを4つ掲げさせていただいたところです。まず1番目が、子供たちを中心に据えた、家庭・学校と地域での食育推進というところで、共食、早寝早起き朝ごはんを推進して、規則正しい食生活の習慣を築きます。食育は子どもたちにとって心身の成長・人格形成に大きな影響を及ぼし、生涯に渡って健全な心と体を培い、豊かな人間性を育んでいく基礎となるものであることから、家庭・学校はもとより関係主体が一体となって推進します、というふうにもまず1番目の目標を立てたところです。

2番目が、健康で豊かな食生活の推進ということで、町民一人ひとりが、歯・口ですね、それから心身の健康を維持しましょうと。栄養バランスとれた食事を取りましょうと。そういったことを推進していくという目標にしたところです。

次の3番目、地産地消・食の交流の推進という目標を掲げました。こちらにつきましては農林水産所体験、こちらを通じて、そういったものについての学習、それを通じてまた地産地消への関心ですとか、生産者さん、それから自然環境に対する感謝の気持ちを育んでいきたいと思いますという目標です。

4番目、食の安心安全に対する理解促進というところで、消費者・生産者が共にですね、食品の安心・安全に対して知識や理解を深めることができるように、普及・啓発に取り組みます、としたところです。

次のページめくっていただきまして、それを実現するための具体的な取り組みということで掲げたところですが、これも第1回目の会議で、こういったことをやっていきますというところでご承認いただいた内容、そのとおりになっております。

25 ページ、次のページにまた移りますけれども、数値目標と推進体制というところで、数値目標につきましては、関係課等と打ち合わせをしながら、このような数字を掲げさせていただいたところでございます。食育について言葉も意味も知ってる町民の割合、これを7割と。食に関心がある町民の割合、これを8割。バランスガイドについての意味を知っている町民の割合を6割、それから朝食を欠食する町民の割合を5%に下げましょうと。食事の際の挨拶これが6割。食べ残しを減らす努力をする町民の割合、これを4割。歯や口のことで困ることがない町民の割合を45%と。農林水産業体験をしたことがある町民の割合を6割。地産地消について、言葉も意味も知っている

町民の割合を8割。それから地産地消を実践している人割合を6割、というふうに目標を設定したところでございます。

26ページをご覧ください。推進体制につきまして、これもですね、第1回目の会議でご承認いただいた体制から変更はしておりません。家庭・保育所・幼稚園・学校、子供達ですね、これが中心ですと。それを支えるということで、丸く囲ってあるというところでした、下の方の点線のところは、計画の進行管理というところですけども、これは役場関係課、事務局は産業振興課です。この会議につきましては、もしまた見直し等あるときとか、また次の計画ですね、そういったのを策定するとき、この会議を開いて行いますよ、ということで、このように書かせていただいております。

27ページです。推進主体別の役割でございます。食育基本法が、それぞれ皆さん役割があるんですよということで掲げておりますので、それぞれ皆さんの役割を本計画でも書かせていただいているところです。まず町民の役割というところで、健康維持ですね、こういったところを務めつつ、食育・地産地消への理解を深めましょうと。家庭では、子供たちが食べることの楽しさですとか、そういったこと、食育を学ぶ場でございますということで、規則正しい食生活・共食を心がけましょう、ということを書いております。これ、すいません、3となっておりますけれども2ですね。町、保険関係者の役割としましては、町民の健康増進ですとか食育・地産地消に関わる関係者の活動を支援していきますと。また、食に関する情報提供、こういうのをやっていきますと。それから学校・保育園・保育園の役割というところでは、食育・地産地消のための活動、これも今もそうなんですけれども、積極的にご協力を頂きたいというところと、給食等を通じた共食ですとか、食事の際の挨拶の推進、それから農林水産業体験、こういったところで子供への指導といったところが求められますとさせていただきますところです。

それから次の食品関連事業者ですけれども、児童・生徒に対する料理教室、これは例えば、漁協さんですとお魚教室ですね。これはもう、食への感謝ですとか共食、それから食への知識、調理、全て網羅してるような教室ですけども、やっていただいておりますし、地場産物の提供するところでは農協さんが牛肉を給食に提供してくださったり、お茶を提供していると。今後もこういったことを、是非ご協力いただければということで、書かせていただいております。

次の農林水産業者ですけれども、これももう今現在、ご活動いただいているところですけども、学校給食への地元産食材の提供ですね。そういったのが安心・安全にもつながる。また更には食育・地産地消といったところの活動にも繋がるというところで、E委員さん始め、錦江町産の食材というの

	<p>は、ご提供いただいているところですが、今後もぜひ、ご協力をいただければ、というふうに考えております。</p> <p>それから7番目、ボランティア、食生活改善推進員等と書かせていただいておりますが、家庭などでの栄養バランスのとれた料理メニューや、地元食材を活用した郷土料理メニュー等の提案・推進が求められます、とさせていただいておりますが、D委員さんにおかれましては、SNSを活用されたうえで、地元食材を使った料理ですとかメニュー、こういったものを情報として発信されていらっしゃる。そういった活動を、今後もぜひ続けていただきたいと考えているところです。</p> <p>既に実施されている取組みというところでは、町はこういったことを、もっと情報として発信していく必要があると。知ってもらう必要があると考えておりますので、総体的に、こういったことを情報発信していくということをやっていくと、いうふうに考えております。</p> <p>ちょっと長くなってしまいましたけれども、計画案の説明を終わらせていただきます。</p>
事務局	<p>資料が訂正があったり、あちらこちらめくったり大変だったと思います。約40分くらいの説明でございました。(1)のアンケートの調査結果、それから(2)の推進計画案、これについてご質問あるいはご提言、そういったものがあれば出していただければと思います。</p>
C委員	<p>ちょうど今、最後に説明をいただいたところで、町民の役割というところですね、子供たちが食べることの楽しさや自然の恵みに対する感謝の気持ちを育むということで、例えば、錦江町の神社で、食に対する、また自然の恵みに対する感謝ということで、旗山神社では正月行事等が行われておりますけれども、そういった行事にも触れるということもまたこういう食育、そういうことにもつながってくるのではないかなと感じたところです。</p>
担当	<p>まさに今おっしゃっていただいたことは、食育、また国・県が課題として挙げている食文化の継承、こういったところにも繋がってくるととても大切な取り組みだと考えますので、ぜひ今後も続けて頂ければありがたいと考えます。ありがとうございます。</p>
事務局	<p>他にございませんでしょうか。</p>
A委員	<p>この推進計画は、概要というふうにまだ捉えていいのかなと。そのなかで、町だったり学校だったりすることが最後の方に、取り組むことが書かれていますが、いただきますを言うとか、残さないとか、そういうのは非常に学校の中では具体的な事項になりますけれども、今おっしゃった方のように、そういう地域の中での神社の事例が。このあとに何かこう、具体的な取組事項というのが、それを付けて出そうかなと。例えば、水産業などで言うと、秋</p>

	まつりでつかみ取りをするじゃないですか。ああいうのも非常に、町内の水産業をPRするいい場ですよね。そういうのが実際、この後に、そういう取り組みとして、今やっていることも含めて、あるいはこれからやろうとしていることも含めて、この計画の中に出てくるのかな、出てこないのかなと。
担当	具体的な計画につきましては、それぞれの役割の中で、それぞれが進めていくと。その考え方の根本になるのが、この計画というふうに考えております。
A委員	進めるというだけで、各分野で進めていくというだけで、その領域、分野から何か計画を出す、くみ上げるとか、そういったことでもないわけですね。努力義務みたいなことで捉えればいいわけですかね。
担当	今、各分野でやっていただいているそういった活動が、実は食育という考えにつながるんですよというような、そういったつなげ方というのをやっていければと思っています。
A委員	達成目標があるわけじゃないですか。達成目標の評価は、やはりまたこういうアンケートでされるわけでしょうか。アンケートの量がすごく多くて、24年度から比べて下がっているものが多かったわけですね。アンケートの量が多いというのも、ひとつの原因なのかなと思うのですが。
担当	おっしゃられたとおり、アンケートについては、今回のものに限らずいろいろアンケートが届くというところで、方々からそういうお話も聞きます。なるべく簡略化できる方向では考えていければとは思いますが、どうしても必要な情報につきましては、すみませんがご協力いただくことになるかと思えます。
事務局	他にございませんか。
I委員	細かいところですが、計画の5ページで、第1次計画の評価で表を書いているんですけども、目標値については括弧書きで年度を入れるとか、現状値は何年度の分なのかとか、あと、計算式が分かりにくいかなと。進捗率じゃなくて進捗ですとおっしゃったんですけども、何から何を引いたのがこれだよとか、そういうのが分るとより見やすいのかなと感じたのと、あとこのアンケート自体はものすごいボリュームで、よく答えたなと私も思いました。かなり根気強い。一般の方も6割ということで、けっこうな回答率だったなと私は驚きました。この計画を作るためにも当然必要だったアンケートだとは思いますが、例えば先ほど、係長さんも出しましたように、ご飯を一人で食べる子供が実際にいる、例えば朝食も実は夕食に実はそれが重なっている人がいたのかなどうなのかなとか、突き詰めていったときに、おそらく無記名ですよ。学校も無記名ですよ。実際に誰が書いたか分からないんだけど、そういう人がいたとすれば、なかなか親の都合とかがあって、私もあまり言えないんですけど、そういう今度は教育サイドか

	<p>らの支援というか指導とか、そこらへんが上手くつなげられるのではないのかなとか。あとは非常に学校給食が大好きだとか好きだという子供が多くて、すごく美味しい給食を出されているんだなというのを感じたんですけども、アンケートで意見を書くところでは、中には栄養士さんとかの情報が古いんじゃないかみたいなコメントもあったりしてるので、いや給食はすごく頑張っているんだよみたいなのも、そのへんの方々にも伝われば、そういうのができればいいのかなと。そのあたりが若干、認識の差もあったりするのかなと。個人的なことだったのかもしれないですけど。そう思うところがありました。この計画を作るためだけではなくて、このアンケートもまた次の展開に、それぞれの分野でつなげていけるような形で、活用されればすごく有効に、やった甲斐があったなというふうになるのではないかと思ったところでした。</p>
担当	<p>ありがとうございます。5ページの表につきましては、年度を加えたり、どういう差引があってこの進捗を出している、もうちょっと分かりやすくなるよう表現を改めたいと思います。それからそのアンケートのボリュームについては、また今後、もう少し簡略化する方向で考えたいと思います。それから情報発信ですね、こちらについてはおっしゃられたとおり、また今後はもうちょっときめ細やかな情報発信、広く伝えられるような手段も考えなければというふうに思います。ありがとうございます。</p>
事務局	<p>他にございませんでしょうか。</p>
I委員	<p>お疲れ様です。アンケートの結果を見て、衝撃を受けている部分もあるわけですけども、食事をちゃんと摂っていなかったりとか、子供たちが朝ご飯を食べていなかったりとか。母数が少ないから、ちょっとの母数で出てきているのかもしれないですけど、先ほど校長先生がおっしゃったんですけど、計画は作りましたけど、これを基にして具体的に、この会の中だけじゃなくて、職員とか各課とか、こういう情報を共有をして、課の中であったりとかで、できることをちょっとずつでもやっていった方がいいと思うんですね。またその町のイベントがありますよね。秋まつりのなかで、これを活かした取り組みをしていけばいいのかなと思うんですけど、具体的にどうこうというのは構想ができないんですけど、そういうコーナーでもできればいいのかなと。そういうコーナーでもいいんですけど、何か意識したものをやっていたら、少しずつ違ってくるのかなと思うんですけども、やっぱり意識することが大事かなと思います。せっかく作りましたので、何かにつないで行くことが大事かなと。自分たちもまたそれを考えていかなければいけないし、保健福祉課は特にまた関連があるので。そう思いました。</p>
担当	<p>ありがとうございます。今、I委員がおっしゃられたところで、このアン</p>

	<p>ケートの情報共有というところでは、アンケート結果も含めまして、すべてホームページで公開したいというふうに考えております。おっしゃられたとおり、こういったのをきっかけに、各課での行事とかそういったところに活かせればいいかなと思います。</p>
I 委員	<p>今の食事情というか、それが私たちの年代よりも上の人たちと、大分違うのかなという気がしたものですから。ちょっと衝撃だな、と。</p>
事務局	<p>あと、ございませんでしょうか。</p>
A 委員	<p>関連して。学校ではこういう取組みをしてください、ということなんですけれども、出席した私は分かりますし、例えばいただきますとか残さないように食べましょうとかいうのは、普段している指導ではありますけど、例えばこの事例に基づいた、食育とか地産地消に基づいた、学校での指導をしてくださいというのは、学校教育のなかで、どこかで他の小中学校の校長先生等に伝える場というのがあるのかなと思っております。ただ資料を配って、見てくださいということでは、つながらないのではないかと思います。4月に新年度の校長会があったりしますけれども、そこでこういう理念でやってくださいというようなのがあれば、またいいのかなと。例えば、子どもたちは地産地消という言葉を知らないんだなというのが分かればですね。じゃあもうちょっと給食の中で、こういうことだよって、具体的にしゃべれると思います。そういった具体的なことができてるのかなと思ったところです。</p>
担当	<p>ありがとうございます。ちょっと今考えているのがですね、今回のこの児童・生徒のアンケート結果というのを、学校単位で別けて集計することができるので、それを作って、計画策定の折にはその計画も持って、アンケートのお礼も兼ねてですね、学校の方を回らせていただきたいと思いますと考えております。</p>
事務局	<p>あと、担当課がそれぞれありますので、担当課の課長さん方なり、またその担当のほうに、一応こういうことで今回こういう計画書を作りましたということでまた周知をしていただくように、こちらからもお願いしたいと思います。</p>
事務局	<p>この結果については、役場関係課で協議をしたほうがいいような、数値がかなり、私もビックリしたのですが、いい方向になっているのかなと思ったら、逆の方向なものですから。かなりレベルを上げていかないといけないのかなという気がします。</p> <p>他にございませんでしょうか。</p> <p>ひとつですね、今A委員やらおっしゃったとおりなんですけれども、数値がかなり悪くなっているアンケートのほうが多いような気がします。我々行政を含めて、そこをしっかりとしていけないといけないんだなあということを、つくづく思ったところでした。ただ、ちょっと話は変わりますけれども、畜</p>

	<p>産の牛、豚、鶏、こういった値段がかなり良くなっています。その裏返しとしてはやはり国内産、前に中国の鶏肉の関係もありましたけれども、こういったことが基礎にあるのかなあというのを、このアンケートではっきりと読み取れたような気がします。畜産だけじゃなくて、今後、野菜、農産物についてもおそらくその傾向は続くのかなと思いますので、我々の担当課としては特に農産物を扱っていますので、その方向に力を入れていく方法が、金取りの早道かなというアンケート結果がしっかりと出たような気がします。そういった意味からも、この結果は大事にしていきながら、今後につなげていければなと思います。</p> <p>それでは（3）の、今後のスケジュールについて、事務局から説明をいたします。</p>
担当	<p>今後のスケジュールについてでございます。今ちょっとご指摘いただいたところですか、そういったところを反映させて、パブリックコメントですね、3月12日から4月13日の間で実施したいと考えております。それを経まして、策定を4月16日月曜日ということで計画したいと思っております。以上です。</p>
事務局	<p>そういった予定になっておりますので、この点はこれで了承をお願いしたいと思います。</p> <p>その他を含めまして、ございませんでしょうか。なければ大きな3番の協議事項を終わりたいと思います。ご協力ありがとうございました。</p>
事務局	<p>それでは協議事項のほうを終わりますけれども、総体的に何か、皆さま方から何かご意見等ございましたら、お伺いしたいのですが。何でも結構ですので、よろしくお願いします。</p> <p>なければ、これで閉めさせていただきたいと思いますが、今後はこのパブリックコメントを経て、計画策定をしていくわけなのですが、今日出た皆さま方のご意見を反映させながら、また町民の皆さま方のご意見が多少あるかと思っておりますので、そういうものも含めまして、作成をして、今後5年間この計画に沿って皆さま方のご協力をよろしくお伺いしたいと思っております。</p> <p>本日はどうもご苦労様でございました。</p>